

2023年度 基本プログラム：内科コース

1. 内科コース概略

将来、内科各科（総合診療科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、腎・高血圧内科、膠原病・リウマチ内科、血液内科、糖尿病・内分泌内科、脳神経内科）への入局を視野にいた、内科研修に重点をおいた研修コースです。

内科医を志す場合は、内科医に必要な能力を身につけながら、将来の専門内科を決定することが可能です。

初期臨床研修2年間を通じて、より多くの内科を研修することで、一般内科医としての基礎知識を得るとともに、2018年度より導入された内科専門医制度にも対応しており、いずれの専門内科にも必要とされる専門内科医取得に必要な症例を経験し、研鑽を積むことができます。

また、2年目の内科研修については、将来の専門性を見据え、自らの希望する内科の研修プログラムにすることができます。内科コースを選択した場合、申し出があれば、初期研修中（特に選択研修の2年目）に主たる担当医として専攻研修と同様な症例経験を積極的に持つこともできるよう対応致します。

- 1) 各内科の期間を1ヶ月にすると全ての専門内科を研修することが可能です。
- 2) 順天堂医院以外の研修協力型病院での一般内科、専門内科での研修も可能です。
- 3) より専門的な知識の習得のための内科手技に特化した実技コースを選択することも可能です^{注)}。
- 4) 既に将来の専門内科を決定している場合は、各科特別コースを選択することも可能です。

内科コース研修モデル

研修1年次

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
必修科目										選択科目	
内科（5ヶ月）					一般外科 （1ヶ月）	救急部門 （2ヶ月）		麻酔科	消化器 一般外科	〇〇科	
内科①（2ヶ月）		内科②（2ヶ月）		内科③ （1ヶ月）	総合診療 科外来	救急科 （1ヶ月）	麻酔科 （2ヶ月）		（1ヶ月）	（2ヶ月）	

研修2年次

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
必修科目			選択科目	必修科目	選択科目		必修科目			選択科目	
必修 （1ヶ月）	内科 （1ヶ月）	救急 部門	内科 （1ヶ月）	必修 （1ヶ月）	内科コース （2ヶ月）		必修 （1ヶ月）	必修 （1ヶ月）	必修 （1ヶ月）	関連科 （2ヶ月）	
地域医療	内科④	救急科 （1ヶ月）	内科⑤	外科	内科 （実技コース）		小児科	産婦人科	精神科	研修関連病院 内科⑥	

※具体的なプログラム内容については、各人により異なります。

※ローテーションの順番については、受け入れの都合等により調整させていただきます。

※内科については、総合診療科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、腎・高血圧内科、膠原病・リウマチ内科、血液内科、糖尿病・内分泌内科、脳神経内科のいずれかが入ります。

2. カリキュラム

内科に特化した2年目の研修プログラム

①他施設研修（2か月～）

2年目の選択期間中に2か月～下記施設（臨床研修病院）での内科研修が可能です。

●協力型研修病院

- ◆順天堂大学医学部附属静岡病院
- ◆順天堂大学医学部附属浦安病院
- ◆順天堂大学医学部附属練馬病院
- ◆順天堂越谷病院
- ◆順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター
- ◆越谷市立病院
- ◆公益財団法人東京都保健医療公社東部地域病院
- ◆医療法人社団順江会江東病院
- ◆日本私立学校振興・共済事業団 東京臨海病院
- ◆国家公務員共済組合連合会 虎の門病院※

●協力施設

- ◆医療法人積仁会 島田総合病院

※受け入れ診療科及び研修期間等の詳細については、別途確認のこと。

②内科実技コース（2ヶ月）

2年目の自由選択期間に選択することが可能です。

2ヶ月間はbed freeとし、曜日ごとに違う診療科へ行き検査技術を習得します。

下記表から午前・午後それぞれ1つずつ選択できます。

<午前>

月	火	水	木	金	土
心臓超音波 (循)	心カテ (循)	心臓超音波 (循)	腹部エコー (消)	電気生理 (循)	心臓リハビリ (循)
気管支鏡 (呼)	気管支鏡 (呼)	頸動脈超音波 (糖)	気管支鏡 (呼)	気管支鏡 (呼)	上部内視鏡 (消)
胸部超音波 (呼)	上部内視鏡 (消)	血漿交換療法 (膠)	胸部超音波 (呼)	消化管造影 (消)	プライマリ外来 (総)
甲状腺超音波 (糖)	骨髄検査 (血)	プライマリ外来 (総)	透析療法 (腎)	骨髄検査 (血)	-
骨髄検査 (血)	プライマリ外来 (総)	-	骨髄検査 (血)	プライマリ外来 (総)	-
プライマリ外来 (総)	-	-	プライマリ外来 (総)	-	-

※プライマリ外来（総）については、初期臨床研修医1年目の人数に応じて受入れ調整

<午後>

月	火	水	木	金	土
心臓超音波 (循)	心カテ (循)	電気生理 (循)	心臓MRI (循)	心臓CT (循)	-
検鏡・診断 (血)	下部内視鏡 (消)	筋電図 (脳)	下部治療内視鏡 (消)	上部治療内視鏡 (消)	-
プライマリ外来 (総)	検鏡・診断 (血)	関節超音波 (膠)	筋電図 (脳)	甲状腺超音波 (糖)	-
下部内視鏡 (消)	プライマリ外来 (総)	プライマリ外来 (総)	腎生検 (腎)	検鏡・診断 (血)	-
呼吸ケア (人工呼吸管理) (呼)	-	-	検鏡・診断 (血)	プライマリ外来 (総)	-
-	-	-	プライマリ外来 (総)	-	-

※プライマリ外来（総）については、初期臨床研修医1年目の人数に応じて受入れ調整

<内科実技コースにおける各内科研修内容の内訳>

診療科	研修内容
総合診療科	救急プライマリケアセンターの総合診療科外来での初診外来
循環器内科	心臓カテーテル検査、電気生理学的検査、心臓超音波検査、心臓 MRI、心臓 CT、心臓リハビリテーション（運動負荷検査）
消化器内科	腹部エコー、上部内視鏡、上部治療内視鏡、下部内視鏡、下部治療内視鏡、消化管造影、血管造影、読影等
呼吸器内科	気管支鏡（経気道的腫瘍生検：EBUS ガイドシース法（EBUS-GS TBB）、経気道的縦隔リンパ節生検：EBUS-TBNA）、超音波検査（微量胸水穿刺、末梢結節影穿刺、縦隔腫瘍生検）、人工呼吸器管理、ポリソムノグラフィー
腎・高血圧内科	腎生検、透析療法
膠原病・リウマチ内科	血漿交換療法、関節超音波
血液内科	骨髄検査（検鏡、診断）
糖尿病・内分泌内科	甲状腺超音波、頸動脈超音波
脳神経内科	脳波、筋電図検査（針筋電図、神経伝導速度検査の実技判読）、ボトックス注射の見学

③各科特別コース

既に入局する診療科が決定している場合は2年目に選択することが可能です。

総合診療科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、腎・高血圧内科、膠原病・リウマチ内科、血液内科、糖尿病・内分泌内科、脳神経内科

● 総合診療科

別途相談のうえ、内容を決定する。

● 循環器内科

循環器内科 外来・検査コース

2年目で再度ラウンドする際に検査、手技の特別コースを体験出来る。

曜日	月	火	水	木	金	土
午前	心エコー	心臓核医学	心カテ	循環器内科外来	電気生理	心臓リハビリ
午後	心エコー	心カテ	心カテ	心臓 MRI	心臓 CT	-

● 消化器内科

消化器内科 検査コース

2年目で再度ラウンドする際に検査、手技の特別コースを体験出来る（例）。

曜日	月	火	水	木	金	土
午前	腹部エコー	上部内視鏡	上部内視鏡	腹部エコー	消化管造影	上部内視鏡
午後	血管造影	下部内視鏡	カンファ	下部治療内視鏡	上部治療内視鏡	-

● 呼吸器内科

症例を通して、胸部レントゲンやCTの読影を積極的に行う研修が可能である。

腫瘍性疾患、アレルギー疾患、閉塞性肺疾患、肺循環疾患、感染症など多彩な呼吸器疾患を対象に、画像診断、病理所見の見方、呼吸生理、抗がん剤・分子標的薬の基本的知識を幅広く学ぶことができ、呼吸器専門医のみならず、GPを目指す研修医も有益な研修が行えます。

● 腎・高血圧内科

末期腎不全（透析患者）における：

- (1) シャント管理（シャント超音波）、(2) 内シャント作成の介助

慢性腎炎患者における：

- (1) 腎生検

● 膠原病・リウマチ内科

1. 関節超音波検査 2. 血漿交換療法の実際 3. 関節レントゲンの読影方法 4. ステロイド剤や免疫抑制剤、生物学的製剤の適応疾患と投与時における注意点、およびその対策法

● 血液内科

別途相談のうえ、内容を決定する

● 糖尿病・内分泌内科

外来診療研修コース…外来診療研修（代謝内分泌疾患に対する外来診療、主に初診外来について指導医の元研修を行う）

● 脳神経内科

別途相談のうえ、内容を決定する

注意事項）

内科実技コースならびに検査を中心とする研修を希望する場合、受け入れの診療科によっては、条件がある場合がございますので、チューターと相談のうえ、事前に各診療科へ受け入れの確認をお願い申し上げます。

研修内容に関しては、状況により変更がございますので、必ずご確認下さい。

～*～*～* 問い合わせ先 ～*～*～*～

詳細については、内科ホームページをご参照、あるいは各診療科へお問い合わせください。

なお、メールでのお問い合わせは、内科ホームページのお問い合わせフォームをご利用いただくか、
naikacha@juntendo.ac.jp へお願い致します。



←内科ホームページへはこちらから

内科専門医制度について ※運用に関しては流動的であるため、詳細等については別途確認のこと

2018年4月より開始された内科専門医制度において、専門研修期間は3年間とし、募集施設ごとに複数の研修施設で構成された病院群で研修を行うこととなります。各プログラムに基づき、1施設以上の施設で幅広く研修することが義務付けられております。

専門研修中は「J-OSLER（ジェイ・オスラー）」により経験症例、評価等をWebで管理することになり、症例登録については、主担当医としてカリキュラムに定める13領域70疾患群を経験し合計200症例以上経験します。なお、初期研修医の際の症例も条件が揃えば、新内科専門医制度の症例として限度内で登録も可能とします。

内科専攻研修において求められる「疾患群」、「症例数」、「病歴提出数」

内容	専攻医3年修了時	専攻医3年修了時	専攻医2年修了時	専攻医1年修了時	※5 病歴要約提出数	
	カリキュラムに示す疾患群	修了要件	経験目標	経験目標		
総合内科Ⅰ（一般）	1	1※2	1		2	
総合内科Ⅱ（高齢者）	1	1※2	1			
総合内科Ⅲ（腫瘍）	1	1※2	1			
消化器	9	5以上※1※2	5以上※1			3※1
循環器	10	5以上※2	5以上			3
内分泌	4	2以上※2	2以上			3※4
代謝	5	3以上※2	3以上			
腎臓	7	4以上※2	4以上			2
呼吸器	8	4以上※2	4以上			3
血液	3	2以上※2	2以上			2
神経	9	5以上※2	5以上			2
アレルギー	2	1以上※2	1以上			1
膠原病	2	1以上※2	1以上			1
感染症	4	2以上※2	2以上			2
救急	4	4※2	4			2
外科紹介症例					2	
剖検症例					1	
合計※5	70疾患群	56疾患群 （任意選択含む）	45疾患群 （任意選択含む）	20疾患群	29症例 （外来は最大7）※ 3	
症例数※5	200以上 （外来は最大20）	160以上 （外来は最大16）	120以上	60以上		

※1 消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて、「消化管」、「肝臓」、「胆・膵」が含まれること

※2 修了要件に示した分野の合計は41疾患群だが、他に異なる15疾患群の経験を加えて、合計56疾患群以上の経験とする

※3 外来症例による病歴要約の提出を7例まで認める（全て異なる疾患群での提出が必要）

※4 「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ1症例ずつ以上の病歴要約を提出する

例) 「内分泌」2例+「代謝」1例、「内分泌」1例+「代謝」2例

※5 初期臨床研修時の症例は、例外的に各専攻医プログラムの委員会が認める内容に限り、その登録が認められる（最大80症例を上限とすること病歴要約への適用については最大14症例を上限とすること）。

※上記は、現在の専門研修プログラム整備基準（内科領域）に基づき、詳細等については、現在も検討・調整中である。